



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより7月号
平成24年6月29日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 371-0757
FAX 381-7248

竹の秋から竹の春

副校長 今野 敏晴

学校の正門の前に竹林が広がっています。通勤しながら毎日竹林を見ていると、たけのこの成長には、改めて驚かされます。たけのこが少し大きくなったかなと思って見ているとどんどんと成長し、皮をはぎ、ついには、親竹の背丈を抜き、枝をのばし、新しい葉を開きます。竹は、1日で1メートルも伸びることがあるそうです。成長した竹の若々しい緑を、日本人は、「若竹色」と呼びました。時を経るにつれ、「青竹色」「老竹色」になります。1本1本の竹は、天にむかってまっすぐに伸びていきます。自分の意志と努力によって精いっぱい伸びていく姿は、本校の子ども達と重なるところがあります。

若竹の成長に頼もしさを感じるところではありますが、驚異的な成長には、秘密があります。竹林の地下では、地下茎が、網の目のようにつながりあっていて、この網の目のような地下茎を伝って親から養分をいただいているのです。親竹が自らの成長を犠牲にしてまでたけのこに養分をおくっているため、5、6月頃には、あたりの樹木が緑一色になるのに竹だけが、葉を黄金色にして落すことから「竹の秋」と言われます。自分の力で伸びているように見える若竹の成長は、実は、竹同士がお互いにつながり、支え合い、助け合っているからなのです。

本校では、保護者の皆様の支えだけでなく、地域の方々にも積極的にご支援いただいております。図書ボランティア、家庭科ボランティア、学援隊、地域のボランティアの方々などです。

6月17日には、三村敦夫様が、5年生の稲作指導として来校し、田植えをみていただきました。6月25日には、植村茂様の畑をお借りしてさつまいもの苗植えを行い、ご指導いただきました。植村様には、教材園や児童の植木鉢への野菜の苗植えもご指導いただいております。さつまいもの苗植えには、くぬぎ台小学校の2年生もいっしょに活動をしました。保護者・地域の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

子ども達には、自分の成長がたくさんの人たちに支えられているのだという感謝の気持ちをもつとともに自分でも人と人のつながりを大切にし、輪を広げていってほしいと思います。

「竹の春」もあります。たけのこが成長して、丈高く伸び、若竹が鮮やかな緑の葉をなびかせる初秋頃の竹の姿を「竹の春」といいます。これから、暑さが厳しくなり、夏休みを迎えます。個人面談では、7月までの課題や成果を話し合うとともに、夏休みに向けての目標も確認するかと思います。暑さに負けず、より自分を高めようと前進する子ども達の意欲を応援したいものです。夏休みを終えたときには、「竹の春」のように立派に成長した若竹となって帰ってくることを期待しています。